

みどりっ子

〈よい子 強い子 みどりの子〉

伊丹市立緑丘小学校
校長 和久 学

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

4月19日(火)に実施された「全国学力・学習状況調査」(6年生対象)の結果が公表されました。今年度は、例年の国語と算数に加え、理科の調査も実施されました。

つきましては、本校の結果の傾向と今後の取り組みについてお知らせします。

なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一つの側面ですが、1年生から6年生までの積み重ねが「学力」および「生きる力」の向上につながっています。どの学年にも通じる内容としてご一読ください。

1 調査内容

(1) 学力に関する調査

【国語、算数、理科】それぞれ45分

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠で、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等に関わる内容。
- *調査問題では、上記①と②が一体的に問われています。

(2) 学習状況に関する調査(児童質問紙)(20分~40分程度)

- ①小学校第6学年の児童対象の、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

2 調査結果

(1) 学力に関する調査結果について

- ①【国語】の正答率は、全国平均および兵庫県平均を上回りました。
 - ・個別に見ると、言語に関する問題の正答率は7割を超え、前年度より上昇しています。3年生以上で実施している「ことばの学習」により、言語事項の内容が定着しつつあると言えます。
 - ・また、記述問題の正答率は5割となり、前年度の4割弱から大きく上昇しています。書くことを大切に学習の取り組みの成果であると言えます。
 - ・「漢字」の書き取りや、「文章を読み取る力」、「決まった字数で要約する力」には、課題が見られました。特に、物語からの出題については、内容理解に課題が見られます。読書習慣の大切さが浮き彫りにされました。
- ②【算数】の正答率についても、全国平均および兵庫県平均を上回りました。
 - ・ほとんどの問題で、全国平均を上回っています。
 - ・しかし、数量が変わっても割合は変わらない濃度の問題や、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する問題、示されたプログラムを修正する問題などに、課題が見られました。
- ③【理科】の正答率についても、全国平均および兵庫県平均を上回りました。
 - ・ほとんどの問題で、全国平均を上回っていますが、器具の扱い方や、気象・自然の現象に関する内容に、課題が見られました。

(2) 学習状況に関する調査結果について

昨年度と同じ質問が53項目ありましたが、「当てはまる」と回答している児童の割合が、昨年度を上回っているの質問は、44項目ありました。

このことから、学校生活に前向きに取り組み、学習活動にも意欲的な児童が増えていることが見て取れます。

- ①特に、昨年度より良い傾向を示す項目(「当てはまる」で比較)
 - ・「毎日、同じくらいの時刻に起きている、寝ている」

- ・「自分には、よいところがあると思う」
 - ・「将来の夢や目標を持っている」
 - ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」
 - ・「人が困っているときは、進んで助けている」
 - ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」
 - ・「学校に行くのは楽しいと思う」
 - ・「友達と協力するのは楽しいと思う」
 - ・「授業で、ICT機器をほぼ毎日使用している」
- ②改善が必要な項目（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が60%未満の回答）
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」
 - ・「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えたことがある」
 - ・「総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて、情報を整理し、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」
- ③その他気になる項目
- ・1日の勉強時間が全国平均より少ない。また、全くしない割合も多い。
 - ・1日の読書時間が全国平均より少ない。また、全く読まない割合も多い。
 - ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う児童が少ない。

3 今後の取り組み〔学力調査後、すでに実施、実施済みも含まれます〕

(1) 学校において

①書く時間を必ず設ける

- ・授業の終わりに、振り返りを書く時間を設け、学びを振り返りながら、思考の整理を行います。
- ・記述式問題を苦手とする児童が多いため、自分の思いや考えを、自分の言葉で表現する場面を設定します。
- ・決まった字数内で要約したり、自分のことばで説明したりする力を養う機会を設けます。

②読書好きにする

- ・活字を通した文学体験ができるのが読書です。図書時間を大切にし、本に触れる機会を増やしていきます。

③朝のモジュール学習の充実

- ・火曜から金曜までの毎朝、8:35～8:45は、モジュール学習を行っています。算数または国語の授業としての学習を、学年で計画的に実施し、スキルアップを図ります。

④「ことばの学習」の時間の充実

- ・昨年度より、「ことば科」に変わる学習として、本校独自の「ことばの学習」を実施しています。3年生～6年生を対象として、総合的な学習の時間から充てており、ワークシートを活用し、言語事項の定着を図っていきます。

⑤チャレンジ教室の充実（放課後学習）

- ・水曜日の放課後に実施しています。2学期からの実施にあたっては、漢字学習や文章の要約に関する問題を取り入れ、苦手内容を克服していきます。

(2) 家庭の協力を得て

①毎日、勉強する時間帯を決め、決まった時間に机に向かう。

②テレビを消し、ゲーム機はしまい、スマホは触らない。

③家族も一緒に読書したり、共通の話題で会話したりするなど、学習環境を整える。

④家庭での学習時間の目安を示し、毎日続ける。

1・2年生：30分、3・4年生：60分、5・6年生：90分

(3) 学校と家庭、地域が手を携えて

①「あいさつ」や「返事」を習慣化する。（まずは、大人が見本に）

②地域行事、サタスタみどりへの参加。（コロナの感染状況を考え合わせて）

今年度の調査結果からは、基本的な生活習慣が確立しつつあることがわかりました。学校においては、子ども一人ひとりに応じた指導方法の工夫や、授業の改善を計画的に進めてまいります。また、ご家庭におきましては、家庭学習へのご協力をいただき、学校と両輪で学習習慣の定着に取り組んでまいりたいと思います。

今後とも、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。